

幼 児 の 教 育

昭和七年三月

縁

何んたる縁か。かうして親しく、あなたの爲には大切な就學前の幾させを、日々につしよに樂しみ得たこころか。

「教育」。そんなこころよりも、あなたを迎へる朝な朝なが私の樂しみでした。「あなたの爲」。そんなこころよりも、あなたといつしよに遊ぶこころが私の喜びでした。

たゞね、今になつて考へて見るに、随分行き届かないこころが多かつたに、それが、すまないのですよ。けれぎね、御免なさいなんて、そんなこころ私決して言ひませんよ。私の足りないこころを、あなたは何んとも思つたりしてゐないに、それが、しつかり、私に分つて居るから――。若しそうでなかつたら、こんなに、にこくこ、あなたの修了をお送り出来るものですか。

いゝ先生、そんなこころ、さうでもいゝのね。あなたのすきな先生だつたのですものね。ほんきに、さうだつたんですのね。

……私、泣いたりしちやるませんよ。